



## 木陰と涼風いっぱい 善福寺池の 昔と今

爽やかな新緑の木々も日を追って、それぞれの葉も濃い緑に…暑さに負けないように葉肉も厚くなり、お互いに重なりあって…夏よ来い…

みどり豊かな杉並には、日差しを逃れる木陰、夕方に涼風をいっぱい送ってくれる森、林…公園があちこちに点在しています。

善福寺池にスポットをあててみますと、現在池は二つあります。が昭和18年以前は「上の池」だけ、池尻から流れる善福寺川、夏には蛍舞う水田、鬱蒼と茂る雑木林があったが、戦時中の防火用水確保のため池に変身し「下の池」の誕生となり現在に至っています。もし、個人所有の雑木林のままだったら…今ごろは住宅が建ち並んでいたのでは…

「戦争の置き土産も悪くないな…」と思うのは私だけでしょうか。当時の「上の池」は湧水で溢れ、「トゲウオ」という、オスは水草などで丸い巣をつくりメスを巣に誘い込み産卵させる珍しい魚が生息していました。湧水が止まり、水の汚れと共に姿を消してしまいました。

「上・下の池」を一周すると約2キロ…みどりいっぱい公園は、暑さを逃れ一休みできる木陰、心地よい風…見上げるような木々、こんもりとした「M邸の屋敷林」…この森が無かったらまるで屏風の外された座敷…「ただの池」となりはてしてしまうのではないしょうか。

池と公園の木々、M邸の森がお互いにバランスを保ちながら、公園に集う人々に、汗をおさえてくれる木陰や風、素晴らしい景観を楽しませてくれます。

時代の流れに変化はつきものですが、善福寺公園やみどり豊かな杉並の環境は守りたいものです。



「どんな色に染まるのかな。」  
【野外草木染め】

# 環境の日に「みどりのイベント」 ～井草 森公園～

毎年6月は5日の「環境の日」を中心とした環境月間です。この日「みどりのイベント」が井草森公園（井草4-12-1）で開催されました。



「何を描こうかなあ。」  
【木のペンダントづくり】



「よし、ここまではうまくいってるぞ。」  
【小枝でアイスづくりにチャレンジ！】



「フロはそうするのね。」  
植木せん定実演アドバイス

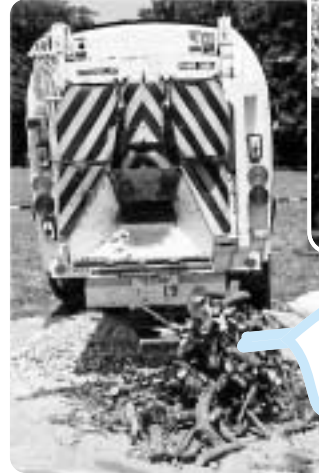


川のはたらき実験に子供たちは夢中  
【川のお仕事】

みどりのボランティアア杉並や区内造園事業者も参加し、自然に親しむ野外活動を中心に18の多彩なイベントが午前9時から午後4時まで行われました。  
家族で楽しみながら体験し学べる内容で、「コスモスの種まき」、「ビー玉など昔の遊びを体験する「チビ子にこんな遊びもあったんだ」ドンドン」、「公園をみんなで掃除しませんか!」、「犬を連れての公園利用について話す会」、公園内の「植物観察会」、わくわく畑の会で収穫したアップルミントのお茶と手作りクッキーが味わえる「わくわく子どもティーショップ」、プールで救出したヤゴを貰い飼いを教わる「ヤゴの飼い方、造園事業者による「緑の相談コーナー」などに多数の区民が参加しました。



ドキドキワクワク、木登りにチャレンジ。  
【木登りチャレンジ】



せん定でてた枝葉をチップにします。  
【剪定枝葉チップ化デモンストレーション】



「植木・草花・腐葉土」の袋の販売  
花の展示即売会。



ベントボトルで、挿し木が上手にできる装置をつくりました。  
ベントボトルで緑をふやそう...

## 緑の歳時記

夏の水辺を彩る睡蓮  
スイレン（スイレン科）



世界の温帯から熱帯にまで約40種が分布しています。日本のヒツジグサもその一つで、これらの野生種のいくつかが交配され、改良されて今見られるような大型の美しい様々な色の園芸品種が作られました。

観賞用のスイレン栽培が盛んになったのは18世紀末、フランスの園芸家マルリアクによるものですが、日本に渡来したのは明治以後です。与謝野晶子は、「紫の睡蓮の花 ほのかなる 息して歎く 水の上かな」と詠んでいます。

余談ですが、エジプトの国花であり、古代エジプトではナイル川に咲くスイレンを聖なる花とし、壁画や彫刻、工芸などのデザインに多く用いています。クロード・モネの「睡蓮」の連作はあまりにも有名です。なお、区内では8月頃まで善福寺公園下の池で見ることができます。スイレンの鑑賞は午前中がお勧めです。その名のごとく午後は睡る（つぼむ）からです。

花言葉：清浄 純粹 甘美

## みどり探訪

みどり再発見  
杉並のみどりとそれに関わる方々をご紹介します。

下井草M邸  
私鉄沿線駅近くの屋敷林

その場所は、<sup>けやき</sup>榎、椎が外音をさえぎり、静けさに満ちています。今では珍しい日本芝の中庭は、中低木に一つまれ、折々の虫や鳥の安心の場でもあります。

それらの感触を楽しみながらお伺いした、ご当主のお話の数々は共感余りあるものでした。

「生きものの種類が増したのは、近年、雑草をも枯らす除草剤を止めてからです。続けていたらこの自然は戻らなかったでしょう。昔からの生活の知恵、地域見まわり行事、庭内での生產品の活用、落ち葉、灰、梅、栗、柿、竹など季節ごとのたのしみが、都市化と共に消え去るとしたら惜しい文化ではないでしょうか。」

人は良い条件の居住地を求めます。その一つが残されている「自然」だとしたら...。このような屋敷林や近所の公園などで、誰もが身近に自然と触れ合えば、豊かで楽しい生活が復活してくれるに違いありません。

白、青の花房がゆれてうなずきました。



# あんさんぶる菟窟

## —みどりのスポット—

平成16年4月1日開館したあんさんぶる菟窟4階にある環境情報館のビオトープは、小さいながら夏草が生い繁り、アサザの花も水の上に顔を出すようになりました。また、スロープでは次々に花が咲き今はコスモスが盛りです。6階の屋上庭園では春の七草、これから楽しめる秋の七草が植えられています。



街中のささやかなみどりの空間ですが心が和みます。近くにお出かけの折にはお寄りになってみてはいかがでしょうか。



専門家  
に聞く

## 園芸ワンポイント

### 「夏の植物管理」

緑に関する専門相談は  
塚山公園みどりの相談所  
くさばな  
☎3302 - 9387  
毎週土・日曜日

梅雨もあがって夏本番。過酷な酷暑を乗り切るための夏の植物の管理のポイントは、植物が過ごしやすい環境を整えてやることです。

梅雨が明けたら、葉やけを起こしやすい植物や日陰を好む植物は、木陰に移したり<sup>かんれいしや</sup>などで遮光をしてあげましょう。ベランダの場合は、ホンコンカボックやシュロチクのような太陽光線につよい観葉植物を利用して木陰をつくると良いでしょう。風通しを良くすることも大切なことですから、鉢植えの植物は棚の上に置くと良いでしょう。

夏の植物の管理の最も大切なことは水やりです。水やりは「水やり10年」といわれるくらい難しいものです。鉢物は1日に二回、鉢底から流れ出るくらいたっぷり、葉水も二回くらいはやるようにしましょう。水やりは日中はさけます。太陽の熱でお湯をかけた状態になったり、

葉について水滴がレンズの役をして葉をいためてしまうからです。鉢に水やりをするだけでなく、葉や鉢の周囲にも散水し温度、湿度の調整をするのが過ごしやすい環境をつくるコツです。飲み水だけでなく、涼しい環境にしてあげるといことです。庭植えの樹木は根を高温や乾燥から守るために、腐葉土やウッドチップなどでマルチングしてやると良いでしょう。

異常乾燥はハダニの発生の原因になります。ハダニの駆除は薬剤を使用せず、葉裏に吹き付けるようにして水をやると効果があります。朝夕見回りをしながら害虫の捕殺をして植物を守ってあげましょう。また、鉢物は常に鉢内を清潔にしておくことで病気の発生を防ぐことができます。

指導：塚山公園みどりの相談所 福本 伊之助 先生

### <編集後記>

- ❖ 降りそぐ夏の陽を逃れ、大木の緑陰へ。「みどりとひと」が重合するひとときかも知れない。〔鈴〕
- ❖ 厳しい暑さのおり発行の今号はいかがでしたか？。〔青〕
- ❖ 環境の移り変わりの例として、60余年前の善福寺池を思い出しながらペンをはしらせました。当時の風景が走馬灯のように浮かんできた。〔木〕
- ❖ 塚山で聞いた恐ろしい話。カミキリ虫に注意！ 50年程前の全国的な大松枯れ後松枯れは見ないが、薬剤散布禁止後の耐用切れで、再び大被害の発生が有りえぬ事はないそうです。紫陽花の頃に羽化。〔井〕
- ❖ 今年度から編集のお仲間に入れていただきました。「みどりとひと」が皆さんに親しまれ、楽しい新聞になることを願って、がんばっていきます。〔山〕
- ❖ みどりのボランティアの新参者としての初仕事は、「みどりとひと」の編集です。井草森公園の「みどりのイベント」会場に取材してそこで生き生き、ハツラツとした先輩の活動ぶりに大なる刺激を受けました。杉並区ってヤルー！と感動しています。〔松〕

みどりの新聞 128号 平成16年7月30日発行

【編集】みどりのボランティア杉並  
【編集・発行】杉並区都市整備部公園緑地課

〒166 8570 杉並区阿佐谷南1 15 1 ☎3312 2111 内線3464  
<http://www.city.suginami.tokyo.jp/>

この印刷物は、大豆油インクを使用しています。  
また、非木材紙のケナフ100%用紙を使用しています。